

クイズで都道府県を覚えよう

渋谷区立千駄谷小学校 内井 利樹

1 はじめに

4月に担任となったクラスで自己紹介をするときに、好きなものをいろいろとあげるが、好きな食べ物を言うときには「好きな食べ物はうどんです」と言う。すると必ずと言っていいほど「どうしてうどんなのですか？」と聞かれるので、「先生は前に香川県に住んでいたからです」と答える。そのときに「ああ、讃岐うどんだからですね」と反応する子はほとんどいない。たいていが「香川県ってどこ？」という顔をするので、地図帳で示してしばらく香川県の紹介をすることになる。

朝のホームルームの時間などでも、秋田県のおばあちゃんの家に行ったこと、家族で南紀白浜に行ったことなど、子どもたちの話題にさまざまな地名が出てくることがある。しかし、その位置をしっかりと把握して話を聞いているのはごく一部のようなのである。旅は見聞を広めてくれるしさまざまな興味をかき立ててくれる。友達の旅の話の話を聞いてイメージをふくらませることができれば、現地に行かなくてもその「におい」を若干かぐことができる。「都道府県名を覚えさせるのはナンセンスだ」という声を耳にすることがあるが、都道府県の名前を知っていることで損をすることはない。

2 楽しく覚えるために

しかし、ただ丸暗記させるのはあまり効果的とはいえない。これまでの社会科の学習で得た知識を生かしながら、楽しく覚えることができることが理想である。そこで子どもが

大好きなクイズ形式の方法を考えた。問題をつくることと解くことの両方に取り組むことで、都道府県に対する興味・関心も高まるのではないかと考えた。

そのための指導のポイントと学習の進め方は以下のとおりである。

指導のポイント

- これまでの社会科学習を生かしたものに
するために、地形や産業の特徴をクイズ
の項目の中に入れるようにする。
- できるだけ楽しく学習できるように、特
産品や名所なども調べるようにする。
- クイズの項目をいくつか例示して、どの
子どももあまり時間をかけずにクイズを
つくることができるようにする。
- 都道府県の位置も確認するために、回答
を書く際には白地図に書き込む。

学習の進め方

- ① 東京都を例にしたクイズを解く。(例題)
都道府県のクイズをつくるには何が必要
かを考える。
- ② 道府県の名前が書いてあるくじを引く。
「クイズつくりのすすめ」を見ながらク
イズにしたい項目を考える。
- ③ 地図帳を使って調べ、クイズカードに問
題を作成する。
- ④ 早く終わった子は違う道府県を選んでさ
らに問題を作成する。
- ⑤ 提出されたクイズカードを張り合わせ、
問題カードを作成する。(教師の作業)
- ⑥ 地図帳を見ながらクイズを解いて、答え
合わせをする。(白地図に書き入れてい
くとよい)

また、「クイズづくりのすすめ」に示したヒントの項目例は以下のとおりである。

ヒントの項目例

- 自然のようすは…（おもな山や山脈、平野、川、近くの海、島、平均気温、年間降水量など）
- おもな産業は…（「米づくりがさかん」「自動車づくりに関連した工場がたくさんある」など、これまでの社会科の学習を生かす。「○○工業地帯に属している」などと書けると最高！）
- 交通の特徴は…（「○○新幹線が通っている」「△△自動車道路が走っている」など）
- 観光名所や名産品は…
- 東京からのおよその距離や方角は…
- 人口や面積は…（「日本で第○位」など、特徴があげられるとよい）
- 昔の地名でいうと…
- その都道府県出身の有名人は…
- その都道府県の形は…

で考えて、すぐにくじを引いてクイズの作成をした。一心不乱に地図帳を見て、思い思いに問題をつくっていった。「海に面してはいない」「昔の地名としては越後である」「庄内平野がある」など、さまざまな情報を見つけてはヒントをつくっていった。これまでの学習の復習になるとともに今まで知らなかったことに驚きもち、あっという間に問題をつくることができた。



都道府県クイズ

5年組

ヒントコーナー

- ・県庁所在地と都道府県の名前が違います。
- ・太平洋に面しています。
- ・南部鉄器が有名です。
- ・リアス式海岸があります。
- ・川や山がたくさんあります。

〔子どもの作品〕

翌日の社会の時間にみんなの問題をコピーして配り、地図帳を見ながらクイズを解いた。ほとんどの子どもが次々に答えを見つけていたが、見つけられない子どもにはヒントの「東北地方」に着目させてそのページを開いたり「りんごが特産物」という項目から地図帳の後ろの資料を探そう助言したりすることで、クイズの解き方が理解できるようにしていった。多くの子どもから「クイズづくりも楽しかったが、みんながつくったクイズを解くときに地図帳で調べていくことが楽しかった」という声が聞かれた。

3 子どもの反応



社会科の時間に東京都を例としたクイズを出したところ、三つめのヒント「日本最南端と最東端の島がある」で、5人の子どもが「わかった！」と手をあげた。その後、いくつかのヒントを出したところ、全員が「東京都だ」と答えることができた。ヒントを出しているときに「特産品などもヒントにしていいの？」と質問してきたので、ヒントの項目をみんな

4 今後の課題

今回の学習は2月に行ったが、5年生の学習が始まる4月に行うことも有効である。その場合には産業の学習をしていないので、ヒントにする項目ももう少し簡単なものに変わってくると思われる。